

春を待つ日々

松田妙子

前回の私の文章は、それなりに各方面にご心労をおかけしたよう
うで、複数の方からお手紙を頂きました。もったいないことです。
私があんな、世をすねたような文章を書いたばかりに、心配して
お手紙を下された方々、ありがとうございます。そして、光円
寺報のありようについて批判的な表現が含まれているのにもかか
わらず、ちゃんと掲載して下さい、誠実この上ないお返事まで添
えて下さった由美子さんにも、心からお詫びと感謝を申し上げます。

中には、私の書いたことが原因でその心を傷つけてしまった人
もあります。それを知った時、私は自分への罰のようにして、バ
スに乗っても三十分はかかる道のりを冬の夜寒の中、歩き通して
帰りました。私が自分を苛んだって、誰の得にもならない。それ
はわかっているけれど。人を傷つけた痛みは、倍返しになって自
分にはね返ってくる。頭の中にさまざまな言葉が渦巻きます。

尾崎豊の「傷つけた人々へ」という歌も頭の中に繰り返し浮か
んできます。ああ、久しぶりだなあ。尾崎豊の歌の力を借りたく
なるなんて。若い頃は、人を傷つけたとか傷つけられたとかいう
ことが、自分の関心事の中で大きなウエイトを占めていたものだ。
してみると、私の心は全く年老いてしまったわけでもないらしい。
心が板のように堅く平板になってしまっただけでもないらしい。
も心を動かさず、食べることしか考えられなくなったと思っ
ていたが、まだ私にもこんな心の動きがあったのだ。

私は、自分のしたことが誰かを傷つけてしまったことを深く悔
いながら、一つのことを実感していました。摂食障害になって四
十年余。枯れ木のような拒食症から、「ブタ以下」と罵られる過食
症へと初めて転じた十六・七才の頃が最もつらかった。今また私
は過食の苦しみを味わっているけれど、あの頃の私と今とでは違
う。私の言動は多くの人に影響を与え、それによって傷つく人が

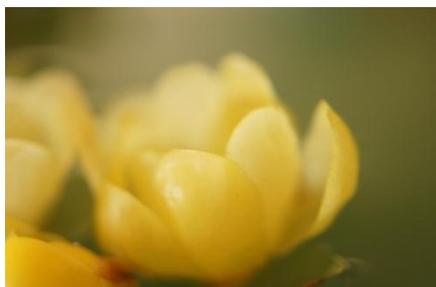
いて、そのことで自分もまた傷つく。不登校で引きこもっていた
高校生の頃とは比較にならないくらい、私の世界は広がったのだ。
そのことを喜ぶと同時に、それが持つこわさも知りました。

私はもはや、無力な十六才の小娘ではない。自分の言動に責任
を持たねばならない大人なんだ。私が不用意にもらした言葉や態
度が、どこで誰にどんな影響を及ぼしているか、常に自覚していな
ければならない。私は完全に孤立した（と思っていた）十六才の
小娘ではないのだ。多くの人々とのつながりの中で生かされてい
ることを知る、一個の自立した人間なんだ・・・！

こういう自覚を持てただけ、あの文章を書いて良かったのかな、
と思います。私に心を開き、自分の苦しみに埋没してし
まうことを心配して、お手紙を下される方々のあることを知ったこ
とも。

今は、寒いのがつらいです。節電のため、暖房を我慢している
のだと言うと、友人におこられました。「そんなことをしても被災
地の人たちは喜ばないよ。それより自分が生きのびることを考え
て」と。確かに、人一倍寒さに弱い私が、しかも手術後の体調不
良の中を、震えながら暖房を我慢していたって、誰の得にもなら
ないかもしれません。でも原発事故以来、
罪悪感なしには電気を使えないのです。

私が生きのびるためには電気が必要で、
その電気を起こすために何かを犠牲にして
いるのだとすれば。私たちは生まれながら
に、他の何ものかを犠牲にしなければ生き
てゆけない、罪深い存在なのか。いえ無論、
そんなことを言えば、私の過食こそ問題に
しなければならぬのはわかっています。
食べるといふことは、他の動植物のいのち
をいただくといふこと。自分の体を維持で
きる必要量を遥かに超える大量の食物を、食
べては吐くという



罪深い行為を続けながら、電気を使うことばかりに節制を自らに課すのは、矛盾しています。それでも、「私たちが便利で快適な生活を追い求めた結果が、この原発事故だ」などと何度も言われれば、便利で快適であったとはいけないような気がするのです。

私には「逆門限」とも言うべき、「夜八時までには家に帰ってはいけない」というルールがあります。節電のためと、過食から逃げ回るためです。そして、帰宅しても「夜十二時までには暖房をつけない」ルールも自分に課しているのです。それがつらくてしょうがないのに。「あなたは、自分を楽にしないで痛めつける方向にばかり傾く生き方をしているようだ」と神経科の医師にも言われました。

鹿を食らうライオンは、己れの行為を罪深いとは思わないでしょう。ヒトに生まれてこそ、罪の意識も芽生えるのです。私の摂食障害だって、人間ならではの病気でしよう。「けだもの以下」と罵られてきましたが、けだものは満腹すればそれ以上は食べませんから。この苦しみも、人間であることのあかし。人に生まれて、己への罪深さと向き合いながら生きていくとは、どういうことなのか。

この原稿も、吐く息の白い部屋で、かじかむ手で書いています。今はただ、春を待つのみ。暖かくなればなっただ、またその時々々の苦しみがあるのだけど。

2013・2・4・10PM*



「NOT-アクション」報告

釈惟蓮

1215 フクシマアクションプロジェクトによる「AEA 国際原子力機関」へ申し入れ、私たちは歓迎していない。市民会議等に参加。「AEAはWHOに圧力をかけ、放射能の被害を隠蔽して原子力 核を推進してきた機関。告発する世界の市民が交流。核被害について何も発言行動しないWHOの前で沈黙の抗議を続ける市民、圧力と闘い真実を明らかにする医師、科学者を迎えて」

1217 岩手県石巻市へ神戸国際支援機構の、未だ救済の手の入らぬ地域へのボランティアに合流。自分の痛みを抱えつつ、個々の被害の違いなどで分断されたままの地域を繋ぐこととする空手指導者に会う。初めて桑の木の手定経験。毎月千キロの道のりを超えて石巻へ通う神戸のキリスト者と若者たち。

1230~15 お寺でゆつり冬休み 保養に福島から3名受け入れ、年越しの正修会でお話していただいた。お正月早々餅付き！一緒に発送作業も↑

115 ふくしま集団裁判官台高裁への宗教者メッセージ集約
福島伊達市の画家あとりえとおの渡邊智教さんとの共同アクション

121 ふくしま集団裁判官台高裁第3回審判官台アクション 渡辺さんと参加しライブペインティング 放射線の中で苦悩する母子の姿が出現。市内デモアピール。弁護団に宗教者メッセージ200名分提出

119 椎名千恵子さん、あとりえとおのさんと古川講演会 2年目の

311を迎える思いを語る。被災地から見えたデータラメの国。しかしあきらめるわけにはいかない、意思表示の手を緩めはしない。今まさに苦悩の只中に放置された被災者として、未来を生きる人のためにも。

126 放射線被曝の恐ろしさとは？内部被曝の真実…子どもたちを守るために 守田敏也さん講演会 命を守る情報のいっは詰まった講演会でした。311以降変わりました私たちの世界で、私たちはどう生き抜いていけばいいのでしょうか。生きた勉強、人とながること、未来を守ること。

私たちの日常にそんな意識がある。インターネット左のアドレスで視聴可能。
私のはなし「悪司会談」が・http://www.ustream.tv/recorded/28816519

131 本山第6回 原子力問題に関する公開研修会

井戸謙一氏 ふくしま集団裁判官台高裁判弁護団講演 放射能汚染の現状と避難の必要性「福島から佐々木さん、京都へ移住した中村純さんのお話 東本願寺HPで視聴できます。

212 大谷派の女性差別をきえるおんなたちの会 京都(佐々木さん、中村純さんのお話、あとりえとおのさんの絵語り)

「このちがあなたを生きていく」について私たちの御遠慮テーマは、見えにくいこの世界に思いを馳せることになり。それについて…

を尊び、責任をしっかりと負うべきとき、私たちがこれまで生き方を変えねばならぬ」と、田中氏の「震災」では往生かなうべからず」とはこの「こと」と気付く。そして未だ収束しない原発、放置される被曝をよそに原発再稼働、経済優先の「復興」へ向かいつつある私たちの社会に対し一人の言葉

「JGあまの苦」が、なかつた「JG」であるのが最も苦「JG」
「この人の救い」となる被災者支援法が全く審議をたず棚上げされたまま、宗教界からの声を「この訴えをしっかりと受け止めていきたい。」

—NOVAアクションレポート

224 市川でゆるゆるカフェの会 夢前サクラベーカーさん 10時半
から光田寺で、参加費500円 お弁当持参でゆくりできます。

2月19日 次は姫路市民会館に復興庁を呼び、公聴会

227 桐山岳大グループワーク、テーマ「ANA」10時～15時半 参加費
三千元 避難移住者は無料） 定員6名 お弁当持参下さい

桐山岳大プロセスファシリテーションによるグループワーク

2月27日10時～15時半 参加費3千円（避難移住者無料）

定員10名 テーマ「ANA」 場所 兵庫県神崎郡市川町甘地3884 光田
寺 ☎079012610162/09036110162 後藤(田美)ナ

桐山岳大プロセスファシリテーター／演劇人
プロセスファシリテーター

プロセスファシリテーター

プロセス指向心理学としても知られているプロセスワークは、ユング心理学、現代物理学、シヤーマニズム、道教などの影響を受け、起る「こと」には意味があると考えます。身体症状やうつ、人間関係の葛藤、組織内での対立といった「見問題」に見える体験には、深く探っていくと、個人や人間関係、またグループについて重要なメッセージがあると理解します。その中でもグループへの取り組みはフルドワークとも呼ばれ、数人の小さなグループから数百人単位の大きなグループまで対象にします。「ビジネスミーティングのように構造化されたものから、性差別、人種差別、戦争といった集合的な問題に取り組み感情的なものまで、フルドワークを取り上げるテーマは多岐に渡ります。即時的な解決よりも、そのグループ、また個人の中にある様々な声に耳を傾け、グループが自分自身を探求発見、理解するよう持続的な「コミュニティ」を築いていくことを目的としています。今回は各団体の「難問」に対し取り組み知恵とアイデアをテーマにします。

34 増山麗奈さんの「ライオン」報告 コープ自然派主催） 姫路市民会館10時半～参加費1000円

39 原発「いひなご」 武藤類子さんの講演 午後6時半から イーグレひめじ 復興の希望の集会所 福島原発告訴団代表武藤類子さんと田中会おひめじ。

310 脱原発はりまアクション「東日本大震災から10年のいひなご」

原発震災の主眼と今、そして未来へ」 中田敏也さんの講演1時半～ 500円
泉加古川総合庁舎 たばす」 収束しない福島原発、全国でたった2つ動いている大飯原発、再度事故の時私たちはどうすればいいのか。

おひめじ笑ひしかないな、全部反対のパラレル

フルドワークみたしー」福島住民 おひめじチャンネルより

福島県立医科大学の山下俊一教授が栄誉ある賞を2回受賞してから、2013年3月に福島県立医科大学を去るといつのだ。一氏は武見記念賞。受賞理由は福島第一原発事故による県民の放射線被ばく健康に関する情報の発信をはじめ、県民の被ばくリスクの低減に向けた行政へのアドバイスに取り組み、事故後の危機管理への大きな役割を果たしたと。さらに全県民を対象とした健康管理調査を立ち上げ、県民の健康を守るための体制づくりへの多大な貢献が評価された。「もう一つは放射線防護の分野において、ノーベル賞に匹敵する Scientific 基調講演。県民健康管理調査検討委員会が、秘密会で見解のすり合わせをしていた件で座長の彼の責任はどうなったのか？原発事故直後、100マイクロナンメートルを超えなければ、全く健康に影響及ぼしません。どんどん外で遊んでいい。」と答えるミスター100ミリメートルとあだ名がついた。しかし福島県の公式サイトでは2011年3月22日付更新で

質疑応答の100マイクロナンメートルを超えなければ健康に影響を及ぼさない旨の発言は、100マイクロナンメートルを超えなければ「の誤りである、訂正し、お詫びを申し上げます。」と迷惑をおかけし、誠に申し訳ありません。」と訂正した。県民は100msv/hより100msv/hを間違えるなんて、迷惑なごまごまなまやさいものではない、殺人です。私は事故直後、放射線のことには全然わからなかった。数字を言われても見当がつかなかった。だから専門家の講演を聞いて知ることになった。そしてよかったです、16msv/hは低いんだ、うちは大丈夫だ、と思っていました。あつた、間違っていました。迷惑をおかけしました、ごめい……これは、殺人です。」

山下氏は震災直後長崎大学からやめて、間違っていたことを伝え福島県民の被曝を促進させ、その後の健康調査でデータをとり、受賞して誇えらわつた長崎へ帰る。

